

平成22年度小松島市事務事業評価シート

事業の位置づけ（基本事項）				整理番号	5 - 3 - 4
事務事業名	地域グリーンニューディール基金事業			担当課係	生活環境課
総合計画上の位置付け	大項目	2. 「安心」のまちづくり		記入担当者	
	中項目	生活環境への阻害要因の減少		内線等	
	小項目	1. 環境への負荷の少ない循環型都市の構築		E-mail	
事業の実施主体	市（委託・補助事業含む）			事業区分	臨時事業
事業予算費目	款	4	衛生費	項	2
	目	4	環境対策総務費	事業	5
開始年度	平成	21	年度	根拠法令・要綱等	エネルギーの使用の合理化に関する法律

事務事業の概要（実施内容）

事業の対象	（誰の、何のために事業を実施するのか） 公共施設への導入
事業の目的 （意図）	（事業実施によってどういう状態にしたいのか） 温室効果ガスの削減及び新エネルギーの啓発
事業の内容 （内容・手法等）	（どういった仕事の内容で、どのような方法・手順で実施しているか） 平成22年度は、市役所本庁舎1階執務室にLED屋内照明125基を設置。 太陽光発電設備の導入については、太陽光パネルを設置する予定の防災倉庫の完成が遅れた為、翌年へ繰り越される。
事業の背景 （経緯等）	（事業開始の背景やこれまでの経緯） 地球温暖化問題の喫緊の環境問題を解決するために必要な事業を実施し、中長期的な持続可能な地域経済社会の構築につなげることを目的とする地域グリーンニューディール基金が創設された。

事務事業の業績・推移（目標・実績）

成果指標	指標名		指標の説明				指標化できない成果 市民に対する省エネ啓発効果	
	単位		H21	H22	H23	H24		将来目標 (年度:平成)
		目標		0	19,250	27,250		
	実績		5,625					
	達成度							

活動実績・参考となる指標	指標名	単位		H21	H22	H23	H24	指標の説明	
	CO2削減効果（太陽光発電）	kg-co2	計画				3,256	6,512	CO2換算係数 H23年度から0.407KW
			実績						
CO2削減効果（LED屋内照明設置）	kg-co2	計画				4,579	4,579	CO2換算係数 H22年度0.392KW H23年度から0.407KW	
		実績			2,205				
		計画							
		実績							
		計画							
		実績							

事務事業に係るコストの業績（目標・実績）

（単位：円）

全体コスト（円）	関連事業費	21年度決算		22年度決算		23年度決算		22年度予算	
		A	B						
	財源内訳 A 直接事業費 B 人件費 × 職員平均人件費 従事した割合	国県支出金			8,352,000		0		27,101,000
		地方債			8,352,000				
		利用者負担							
		一般財源				0		0	
				0		1,564,012			
						7,820,060			
					0.2				
		A + B	0		9,916,012		0		
単位コスト	活動指標の説明				年間発電量			備考	
	活動指標1単位当たりコスト		#DIV/0!		年間発電削減量			平成21年4月1日現在 人口41,778人	
	市民一人あたりのコスト		0			1,763		平成22年4月1日現在 人口41,507人	

事業を取り巻く環境

国・県・他団体の動向や環境変化と今後の予測	(社会状況、法改正、規制緩和、周辺の状況等や今後の予測) 省エネルギー法の改正により、中長期計画では、年1%のエネルギー消費の削減を求められており、今後も自然エネルギー等を活用した二酸化炭素排出量削減を求められる。
事業に対する住民の意見	(意識調査・議会質疑等、事業に対する期待・要望・苦情など) 省エネ、温暖化対策を進めていくうえで、自然エネルギーを活用した太陽光発電システム等の普及促進も一つの手法であるとの意見が寄せられる。

項目別評価・今後の課題

評価項目	評価結果(該当にチェック)	判断理由・評価コメント (具体的に記入すること)
必要性 (市民ニーズ)	必要性が高い	自然エネルギーの活用や地球温暖化防止に向けた取組の重要性を啓発する。
	どちらかといえば必要性がある	
	必要性が低い	
	必要性がない	
妥当性 (市で行わなければならないか)	市が行わないといけない	省エネ、温暖化対策は行政が率先して、行うべきものである。
	どちらかといえば市で実施	
	必然性が低い	
効率性 (事業の手法は効率よいが、コスト削減の余地はないか)	必然性がない	特に問題ないと思われる。
	効率的である	
	どちらかといえば効率的	
	どちらかといえば非効率的	
緊急性 (他事業に優先し、実施する必要があるか)	非効率的	地域グリーンニューディール基金事業は平成23年度までの補助事業(全額補助)であり、緊急性がある。
	緊急性が高い	
	比較的緊急性がある	
	緊急性が低い	
成果 (目的の達成状況)	緊急性はない	自然エネルギーの活用や地球温暖化防止に向けた取組を実践していただけるよう市民の意識啓発を行う。
	成果が上がっている	
	どちらかといえば上がっている	
	どちらかといえば上がっていない	
今後の課題	成果は上がっていない	今後も継続して、温室効果ガスの削減及び新エネルギーの啓発に努める。

一次評価(評価点は目安とし、総合的な評価をすること)

評価	事務事業の方向性	1 拡充する	2 現状のまま継続する	3 改善・効率化し継続	4 見直しの上縮小する	5 終期設定し終了	6 休止	7 廃止	80点以上	60~79点	50~59点	40~49点	30~39点	20~29点	19点以下	評価点による判定	評価点	判定に至った理由	
2																	79	2	この事業は、平成23年度までの補助事業であるが、今後も継続してエネルギー使用の合理化に努めること。

改善・効率化・見直しの方向性 一次評価の判定が3・4の時は、必ず記入すること。

【具体的な改善等取組内容(方向性・対象・手段等について記述)】

--

二次評価(所管担当の一次評価を、総合評価し判定すること)

評価	事務事業の方向性	1 拡充する	2 現状のまま継続する	3 改善・効率化し継続	4 見直しの上縮小する	5 終期設定し終了	6 休止	7 廃止	判定説明
2									省エネ対策、温暖化対策は、地球規模の問題であり、率先したエネルギー使用の合理化が求められている。今後も国及び県の動向を注視しながら、継続する事務事業である。